

養父市立大屋中学校

令和5年度 学 校 評 価

(学校自己評価・学校関係者評価)

令和5年2月24日

1 本年度の学校教育目標	伸びよ 豊かに たくましく ～未来の郷土を切り拓く生徒の育成～
2 本年度の学校重点目標	(1) ころ豊かで自立する人づくり (小中一貫教育の推進、地域連携の推進) (2) 「生きる」力を育む教育の推進 (確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成・特別支援教育の推進) (3) 教職員の資質能力の向上 (教職員の協働体制の確立、実践的指導力の向上、教職員の働き方改革の推進) (4) 安心、安全で魅力ある学校づくり (生徒指導の充実、人権教育の推進、安全教育の推進、コロナ対応)

3 学校自己評価結果 (A 良好 B 概ね良好 C やや努力を要する D 一層の努力を要する)			
分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方向
学校運営	開かれた学校づくり	概ね良好	・学校だよりを作成し、学校での様子を保護者や地域に発信した。ホームページでも、生徒の活動の様子などを載せており、保護者の方だけでなく地域の方々にも学校の様子を知ってもらうことが概ねできている。また、学年通信を毎月発行し、行事予定や学年の様子を写真や文書で伝えることができた。 ・文化祭と併せてオープンスクールを行った。今年度は、平日開催の文化祭だったが、多くの保護者に来校してもらった。 ・ミスパショウ公園や明延・神子畑運動場体験学習、青谿書院や木彫フォークアート見学など、地域に直接出向いて学習することができた。
	危機管理体制の整備	概ね良好	・防災計画に従って防災に関する授業や避難訓練等を実施した。 ・6月と1月に避難訓練を実施し、特に地震に対する危機意識を高める学習を行った。また、1月の避難訓練では、防災集会を行った後、学年毎にICT機器を使って防災学習を行った。
	教職員の資質向上	概ね良好	・道徳の講師を招いて、小中合同で2回研修会を行った。10月に、中学校1年生のクラスで道徳の授業研究を行い、小中合同で事後研究会を行い研修を深めた。 ・校内研修で全教員が授業研究を行い、学期末に研究会を行った。また、SCやSSWの講話を行ったり、特別支援学校から講師を招いて、研修会を行ったりした。
	勤務時間の適正化	概ね良好	・教職員定時退勤日の完全実施が行われている。計画的に年休取得に取り組みんだり、職務の優先順位を明確化したりして、強弱のある働き方をしよう意識改革を求めている。
	校種間連携 (小中一貫教育)	良好	・大屋小中合同研修会を2回開催した。つながり部会と授業改善部会に分かれて研修を行った。つながり部会では、すべての児童・生徒にSNSの利用について実態調査を行い現状把握に努めた。授業改善部会では、小中共有の学習ルールを明確にして学習に取り組む姿勢の改善に努めた。6年生登校も2回実施した。 ・今年度は、音楽と図工で中学校の教師が小学校5・6年生を対象に乗り入れ授業を行い校種間連携を深めた。
教科及び教科外の学習指導	基礎基本の定着と個に応じた指導	概ね良好	・一人一台のタブレットを有効活用して授業に取り組んでいる。 ・指導形態を工夫しながら生徒の学力向上を目指した取組を行っている。今年度は、数学と英語で少人数指導を行い、学習活動の充実が図れた。 ・3観点の評価について、評定との関係を明確にした。 ・定期考査前に、学習相談日を設定して、生徒の個に応じた質問に答えるようにしている。 ・2学期の中間考査を復活させて、考査期間にテスト勉強ができる時間を作った。
	人権・道徳教育の充実	概ね良好	・外部から講師を招聘して、年間2回行った小中合同研修で、教員の資質向上を図った。また、ローテーション道徳等で生徒の実践的指導力の向上を図った。
	読書活動の推進	やや努力を要する	・図書館開放や朝読書、お話しプレゼントなどで、読書活動の推進を図っている。 ・学級文庫を置いたり、長期休業の課題で読書マラソン企画を実施し、たくさん読んだ生徒を表彰したりと工夫をしたが、読書時間の向上につながっていない。
	キャリア教育の充実	概ね良好	・「キャリアノート」と「キャリアパスポート」の活用について、小中9カ年を見通した指導を行っている。 ・キャリアノートをファイリングして、どの学年に上がっても、振り返りやすいようにし、キャリア教育の積み上げとしている。
	情報教育	概ね良好	・「大屋中学校生徒会SNS利用の6か条」をもとに、SNS・ゲーム使用の3本柱について意識調査や啓発活動を行った。 ・一人一台タブレットを活用して、欠席者に授業配信を行った。 ・授業では、動画発信や振り返り学習、表計算学習など、ICT機器を活用した。 ・外部から講師を招聘して、情報モラル講演会を行い、情報モラルの向上を図った。
	特別支援教育	良好	・特別支援教育コーディネーターを中心に、一人一人の教育的ニーズに応じた個別の指導計画や個別の支援計画を作成し、それを基に特別支援教育の取り組みを進めた。 ・合理的配慮やユニバーサルデザイン等について、和田山特別支援学校の講師を招聘し講話を聞いたり、学期ごとに授業を参観してもらった後、担任と面談をして指導助言を受けたりした。講師からの助言を教職員で共有し、クリアボックスを購入してロッカーの整理整頓に努めたり、指導の仕方を工夫したりした。 ・通級指導により、対象の生徒のコミュニケーション能力の向上やソーシャルスキルの向上を図っている。
生徒指導・その他	あいさつ・掃除	概ね良好	・縦割り班清掃により、3年生のリーダーシップが醸成されている。学期始めに環境委員会が清掃集会を行い、清掃の仕方について学習できた。毎学期末に、優秀な班を環境委員会表彰し、伝統を引き継ぐ取り組みを行っている。 ・生徒会の生活部会によるあいさつ向上の取組で、あいさつの声の意識ができた。
	いじめ防止	概ね良好	・毎月のいじめアンケートによる実態把握や教育相談を通して、生徒理解を深めている。 ・いじめの未然防止と早期発見に心がけた取組をしている。
	生徒理解	良好	・日々の「報連相共」による情報共有、毎日の職員打ち合わせによる情報交換、毎週の生徒指導委員会、職員会議後に行われる生徒指導情報交換等により、十分な情報共有が図られ、生徒や保護者への対応に齟齬が起こることがないように取り組めた。
	不登校	一層の努力を要する	・不登校生徒には、SC、SSW等の関わりを密にしながら、本人の現状把握をし養護教諭、学年職員と管理職で、機動的に対策を考えながら取り組んでいる。「養父市ホットステーション」へのアプローチも行っているが、ほとんど取り用いていない。
	そうあくんの日	概ね良好	・「そうあくんカード」を作成して、振り返りができる取組を進めている。また、そうあくんだよりを発行して、取り組みを紹介するなどの啓発活動をして少しずつ成果をあげている。

4 総合的な学校関係者評価	<p>アフターコロナと言われているが、今年度もコロナ禍同様の対策を講じながら、授業参観、体育祭、文化祭等の学校行事を行った。具体的には、授業参観は、換気を意識し、マスク着用で保護者にご来校いただいた。体育祭、文化祭は、コロナ禍前は1日開催であったが、コロナ禍同様平日開催で保護者の参加に規制を設けず、地域の方にもお声かけをして参加していただく方向で行えた。大屋地域の生徒の特徴でもある、地域の行事への参加が出来るようになり地域行事への参加を呼びかけた。部活動が、全員入部でなくなり、地域移行も視野に入れた取り組みを進めている。活動に全く参加しない生徒がいるが社会体育等への参加を意識しているようである。教職員の皆さんの方の工夫や努力で生徒それぞれの力を伸ばす教育が進められているが、更なる努力と工夫で指導力向上を常に目指して欲しい、不登校や登校しぶりの生徒が増加していることに危機を感じている。丁寧な対応で、不登校の解消へ向かえるようにして欲しい。</p>
5 評価項目ごとの学校関係者評価	<p>学校自己評価の適切さ</p> <p>○定期的に発行される「学校だより」や適宜更新されるホームページで、生徒の様子が分かりやすい。 ○今年度も、体育祭、文化祭が平日開催で行ったが、これをスタンダードにするかどうかは、保護者や地域の声も参考に検討して欲しい。 ○ミスパショウ公園の見学、朝倉山椒採り体験、明延・神子畑運動場見学など、地域学習を多く取り入れていることが大屋らしい取り組みなので、今後も継続して欲しい。 ○トライやる・ウィーク、わくわくオーケストラの兵庫型の体験学習をコロナ禍前にもどして、行ったことは大きな成果であった。</p> <p>○正月に石川県で震度7の地震が発生した。いつどこで起こるか分からない地震などの災害であるが、いつ起こっても冷静で的確な判断ができるように訓練を行って欲しい。また、災害時の調理を見越した調理実習を今後も継続して行って欲しい。</p> <p>○先生方が多くの研修を受けておられることが理解できた。体罰、アンガーマネジメントの研修を来年度は行って欲しい。 ○SCやSSWの研修は、生徒理解のために非常に重要なことであると捉えている。しっかり情報共有して研修の成果を発揮して欲しい。特に、昨今不登校の増加が社会的にも大きな課題となっている、大屋中学校も増加傾向と聞いている、不登校解消に向けた取組に注力して欲しい。 ○小中合同で垣根を越えた研修が行われている。今後も継続した取り組みを行っていただき、資質向上に努めていただきたい。</p> <p>○完全実施が行われているとのこと。継続して取り組みを続けて欲しい。 ○先生方のワークライフバランスを考えた職場での校務であって欲しい。 ○部活動の地域移行が進むように努めて欲しい。</p> <p>○小中合同研修会が本年度も継続して行われていることが評価できる。子どもたちの学びは連続しているので、小中が同じ歩調で学習活動を進めていることは評価できる ○6年生登校、相互授業参観、乗り入れ授業など、1小1中ならではの取り組みが進んでいると感じている。今後より一層の取組を期待している。 ○小中の教育的課題は、自尊感情の醸成と読書活動等の活字に触れる機会の低下と共通しているようである。小中連携して課題解決に取り組んで欲しい。</p> <p>○コロナ禍で定着したリモート授業の対応を今後も継続して欲しい。 ○基礎基本の定着と活用する力の育成が課題である。授業に興味関心を持って受けれるようにするために、生活に根ざした課題意識をもたせることが重要であると考え。教科の内容を追って教えていると、多様な発想をさせる機会を逃す恐れがあるので、バランスの取れた指導を行って欲しい。 ○生徒の学力向上に尽力して欲しい。</p> <p>○SNSが発達した時代だから、小中共通で行っているSNS使用の3本柱を生徒に機会があること伝えて、浸透させてネットによる人権侵害がないように努めて欲しい。 ○道徳の研修を小中合同で行っているとのこと、今後も継続して欲しい。</p> <p>○学校評価の保護者評価で、読書活動の推進が、いい方向でポイントがアップしたと聞いた、読書活動は、様々な教育への効果が期待できる。今後も更に充実するように、取組を進めていただきたい。</p> <p>○本年度は、地域の方を講師に招いての講演会が少なかったようである。生徒のキャリア形成を図るためにも地域で活躍をされている方を講師として招聘をすいしんすることを願っている。</p> <p>○SNSは、人間関係の問題や犯罪、不登校に関わる問題まで、上手に付き合えば便利で役に立つものではあるが、使い方を間違えると命まで落としかねないような問題に直面することがある。しっかりと情報モラルを伝えて、3本柱のルールに則した使い方をしていくように指導して欲しい。 ○コロナ感染症による出席停止では、リモートで授業を受けることができる。今後も欠席が学習の遅れにならないような学力保障のための使い方も進めて欲しい。</p> <p>○今後も関係機関との連携を密にして、特別支援教育を推進されることを期待しています。特に、和田山特別支援学校との連携は学期に1回は必ず行って支援の考え方を各職員が理解し関わっていくように欲しい。 ○通級指導の必要な生徒は、ためらわず積極的に薦めて行くようにして欲しい。関係機関の援助などを得ながら、保護者理解を進めて欲しい。また、現在通級指導を受けている生徒の評価もしっかりと行い、必要なスキルについて明確にしながら、通級指導担当としっかりと連携を図って進めていって欲しい。</p> <p>○地域でのあいさつの声が大きいという声がかえってくるのが嬉しいことだ。学校では生徒会を中心に取り組んでいるようなので、今後も継続して取り組み、大きな気持ちの良い挨拶が誰もが出来るようになり取り組みを進めて欲しい。</p> <p>○毎月の実態把握を今後も続け、いじめの早期発見、早期対応を徹底して欲しい。また、いじめアンケートが生徒の抑止力になるようにして欲しい。 ○子どもの変化に気づくアンテナを拓もって欲しい。人間関係が原因で不登校等になることもあると聞いている。十分な対応を継続して行って欲しい。</p> <p>○生徒理解だけでなく、保護者や地域の方々にも心配りをして、対応されていることに頭が下がる思いである。今後も困ったことなどあれば情報提供をいただき、協力していきたい。 ○大屋の子どもは素直である。外からの刺激に対して弱い部分があると思うので、自分を見失しなれないよう指導してください。</p> <p>○全国的に不登校の生徒が増加傾向にあるとのこと。大屋中学校でも増加傾向と聞く。学校に登校できるように職員全員で対応して欲しい。また、関係機関との連携を図りつつ、生徒理解をして、アプローチを続けて欲しい。</p> <p>○今年度も、学年が進むにつれて取り組みが難しくなってきたようだが、根気よく取組を継続し定着を図って欲しい。 ○「そうあくんの日」のケーブル放送のアイデアは良かったと思う。自分たちも本を読もうと思った。</p>